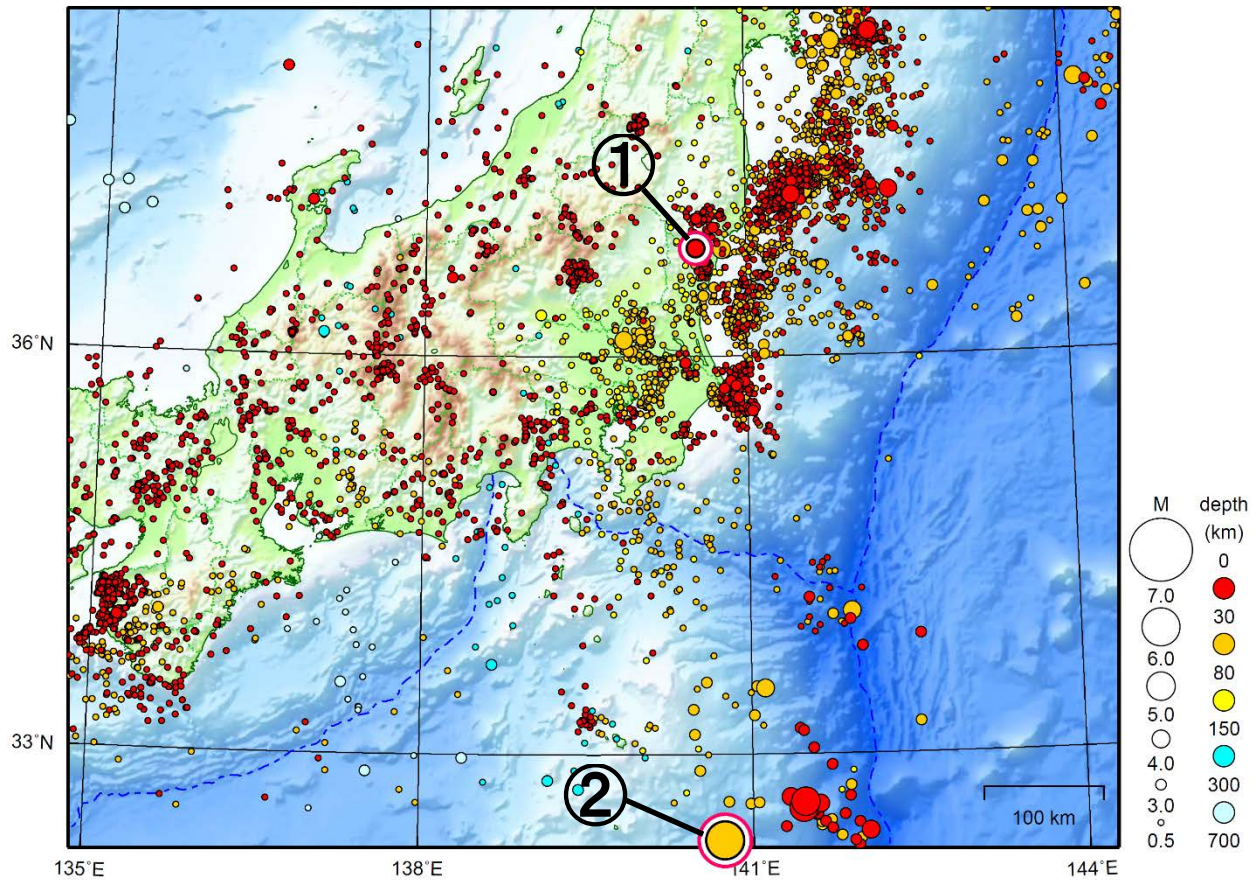


関東・中部地方

2017/11/01 00:00 ~ 2017/11/30 24:00

N=5666



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 11月3日に茨城県北部でM4.8の地震（最大震度3）が発生した。
- ② 11月16日に八丈島東方沖でM6.0の地震（最大震度3）が発生した。

（上記期間外）

- 12月2日に茨城県南部でM4.4の地震（最大震度4）が発生した。
- 12月6日に長野県中部でM5.3の地震（最大震度4）が発生した。
- 12月6日に茨城県北部でM4.5の地震（最大震度3）が発生した。

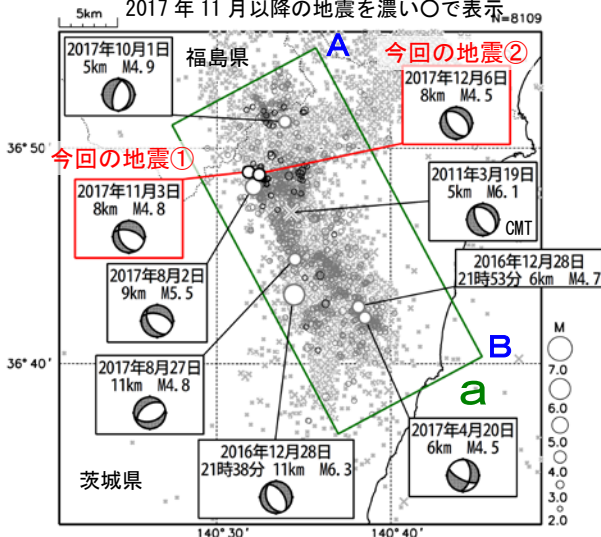
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

11月3日、12月6日 茨城県北部の地震

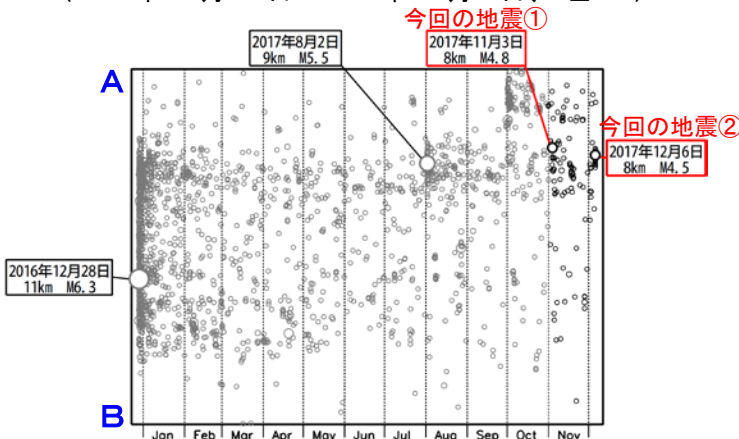
震央分布図

(2011年1月1日~2017年12月6日、
深さ0~20km、 $M \geq 2.0$)

2016年12月27日までの地震を薄い×で表示
2016年12月28日から2017年10月31日の地震を薄い○で表示
2017年11月以降の地震を濃い○で表示

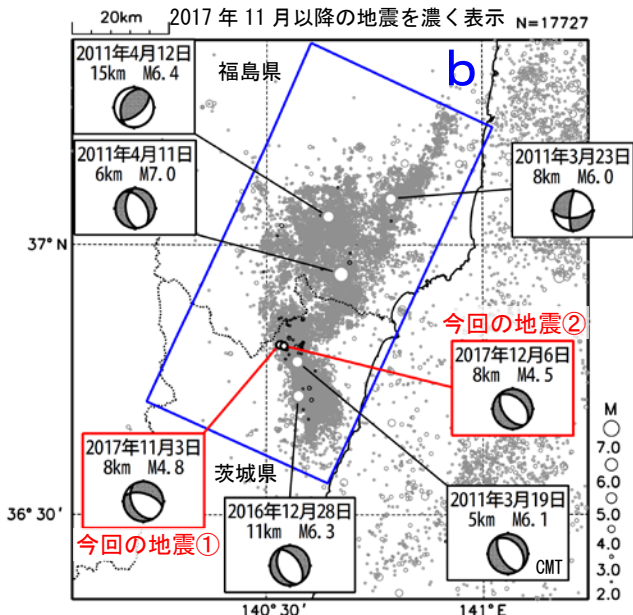


領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)
(2016年12月28日~2017年12月6日、 $M \geq 1.5$)



震央分布図

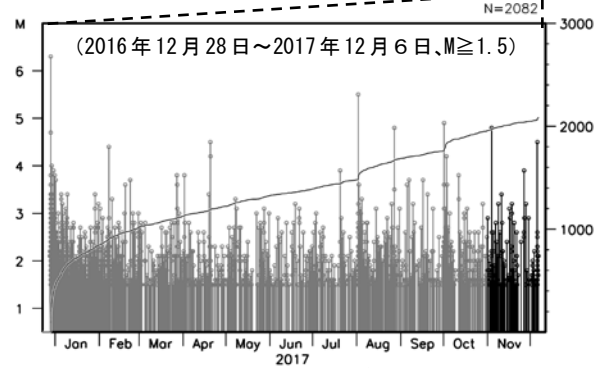
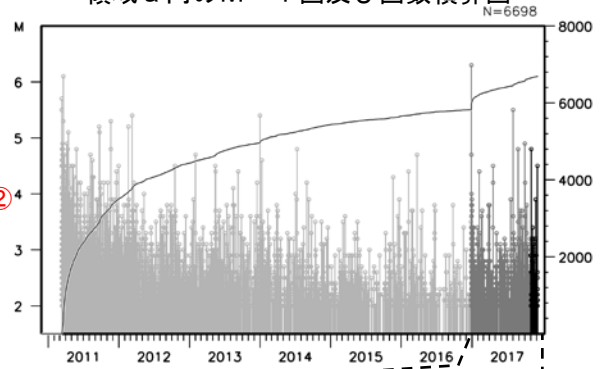
(1997年10月1日~2017年12月6日、
深さ0~30km、 $M \geq 2.0$)



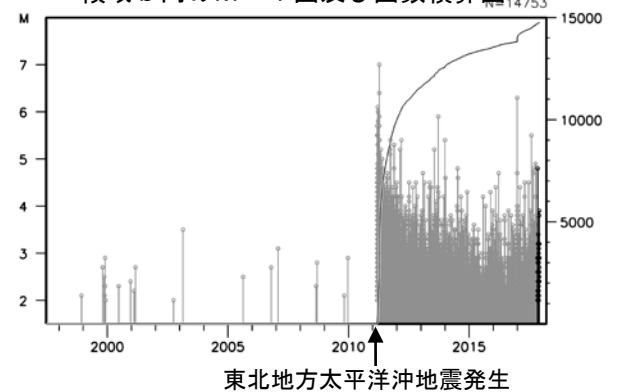
2017年11月3日21時38分に茨城県北部の深さ8kmでM4.8の地震(最大震度3、今回の地震①)が発生した。また、同年12月6日00時22分に茨城県北部の深さ8kmでM4.5の地震(最大震度3、今回の地震②)が発生した。これらの地震は地殻内で発生したもので、いずれも発震機構は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。これらの地震は、2016年12月28日のM6.3の地震(最大震度6弱)の発生以降にまとまった地震活動がみられている領域の北端付近で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、福島県浜通りから茨城県北部にかけての地殻内(領域b)では、東北地方太平洋沖地震の発生後に地震活動が活発化し、2011年4月11日に発生したM7.0の地震では、死者4人等の被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。この活発な地震活動は現在も継続している。

領域 a 内のM-T図及び回数積算図

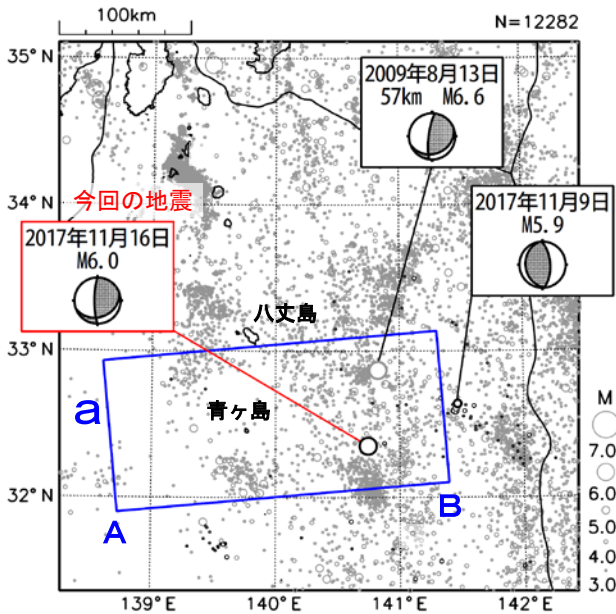


領域 b 内のM-T図及び回数積算図



11月16日 八丈島東方沖の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2017年11月30日、
深さ0～250km、 $M \geq 3.0$)
2017年11月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解

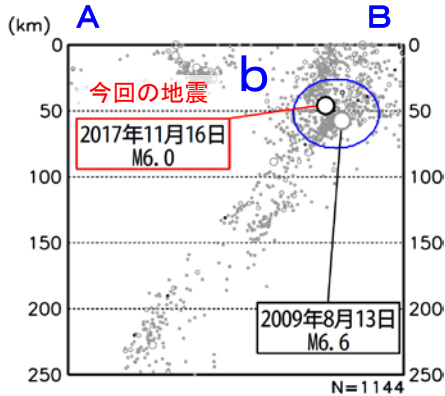


2017年11月16日18時43分に八丈島東方沖でM6.0の地震 (最大震度3) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT解) が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した。

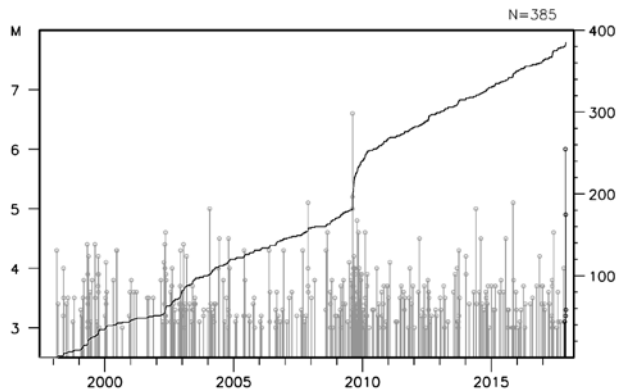
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、2009年8月13日にM6.6の地震 (最大震度5弱) の地震が発生している。この地震の発生後、M5.0以上の地震が同日中に2回発生するなど、地震活動が一時的に活発化した。

1923年以降の活動をみると、今回の震央付近 (領域c) では、1972年2月29日にM7.0の地震 (最大震度5) が発生し、千葉県館山市布良で最大23cmの高さの津波が観測された。また、1972年12月4日にM7.2の地震 (最大震度6、「1972年12月4日八丈島東方沖地震」) が発生し、和歌山県串本町袋港で最大35cmの高さの津波が観測された。(津波の高さは、験震時報 (第38巻) による。)

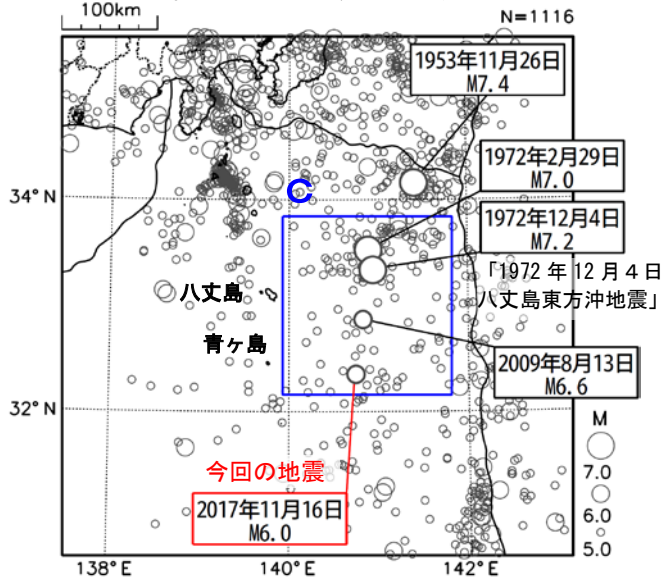
領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図
(1923年1月1日～2017年11月30日、
深さ0～250km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図

